

琉球大学学術リポジトリ

改変版日本看護協会転倒転落リスクアセスメントツールの予測妥当性：後方視的コホート研究

メタデータ	言語: en 出版者: 琉球大学 公開日: 2017-01-12 キーワード (Ja): キーワード (En): Accidental falls, Inpatients, Japan, Nursing assessment, Reproducibility of results, Risk assessment 作成者: 東恩納, 美樹, Higaonna, Miki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/36025

2016年11月21日

琉球大学大学院
保健学研究科後期課程委員会 殿

論文審査委員

主査 氏 名 高倉実
副査 氏 名 大嶺ふじ子
副査 氏 名 田中康春



学位（博士）論文審査及び学力確認の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び学力確認を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	氏名 東恩納 美樹		
成績評価	学位論文	合格	不合格
	学力確認	合格	不合格
論文題目	The predictive validity of a modified Japanese Nursing Association fall risk assessment tool: A retrospective cohort study		
審査要旨（2000字以内） 本論文は、改変版日本看護協会転倒転落リスクアセスメントツール（modified Japanese Nursing Association fall risk assessment tool）の予測妥当性を検証し、さらにその予測妥当性を入院後7日、14日、21日、28日の異なる観察期間で比較検討することを目的としている。 本論文で使用された研究方法は後方視的コホート研究である。日本の大学病院（600床）に2010年4月～9月（6カ月間）に入院した15歳以上の患者を対象として、入院時の転倒転落リスクアセスメントの記録および入院後28日間追跡したインシデントレポート等の記録を得て、分析に用いている。予測妥当性は、入院後7日、14日、21日、28日の観察サンプルで受信者動作特性曲線下面積、感度、特異度、陽性尤度比、陰性尤度比を用いて評価している。さらに、4つの観察サンプルは、転倒転落率が同様になるようにブートストラップサンプリング法を用いて調整後、予測妥当性評価指標を再度算出し比較している。			

(次頁へ続く)

結果として、改変版日本看護協会転倒転落リスクアセスメントツールのカットオフポイント 6 点における感度は 0.82, 特異度は 0.71, 陽性尤度比は 2.83, 陰性尤度比は 0.26 で, 受信者動作特性曲線下面積は 0.83 であり, 本ツールが優れた予測的妥当性を有することを示唆した。ブートストラップ法で転倒転落率を調整した異なる観察期間のサンプルの受信者動作特性曲線下面積を比較すると, 入院後 7 日目のサンプルは 14 日目および 28 日目のサンプルより有意に高かったが, 21 日目のサンプルとは有意な差はなかったことが示された。

病院で起こる看護ケアに関連するアクシデントやインシデントの中で最も頻回に起こる事象である患者の転倒転落について, これまで, 国外でいくつかの転倒転落リスクアセスメントツールが開発され, その予測妥当性について多くの研究成果が報告されてきた。しかし, 改変版日本看護協会転倒転落リスクアセスメントツールの妥当性研究はなく, 入院患者を対象にして異なる観察期間での転倒転落の予測妥当性の変化を検証した研究も見当たらない。したがって, 本論文は, 改変版日本看護協会転倒転落リスクアセスメントツールの予測的妥当性に関する最初の研究であり, 転倒転落の予測妥当性が観察期間により変化する可能性を示したことから, 十分な新規性および学術的な意義が認められる。また, 同時に提出された副論文は, 転倒転落リスクアセスメントツールの評価者間信頼性を検討しており, アセスメントツールの使用可能性を示唆している。これらの研究より, 今後, 転倒転落リスクアセスメントツールの臨床現場におけるさらなる活用が期待できることから, 本論文の当該分野における貢献度も高いと思われる。

申請者は審査会における質疑に対して十分に応えており, 口頭による学力の確認においても博士としての保健学に関する学力を有していることが確認された。

以上のことより, 本審査会では東恩納美樹氏の学位論文および学力確認を合格とする。